

Ⅲ 調査結果の概要（生活実態等）

1 身体障害者手帳の所持の状況

全国の18歳以上の在宅の身体障害者3,245,000人のうち、身体障害者福祉法に基づいて身体障害者手帳を所持している者は、3,117,000人で全体の96.1%であり、所持率は前回調査より増加している。

これを障害の種類別に手帳を所持している者の割合をみると、視覚障害が95.7%、聴覚・言語障害が93.4%、肢体不自由96.2%、内部障害97.2%となっている。

表Ⅲ-1 障害の種類別にみた身体障害者手帳所持の状況

障害の種類	平成13年6月				平成8年11月			
	総数	手帳有り	手帳無し	回答無し	総数	手帳有り	手帳無し	回答無し
総数	3,245 (100.0)	3,117 (96.1)	40 (1.2)	88 (2.7)	2,933 (100.0)	2,657 (90.6)	129 (4.4)	147 (5.0)
視覚障害	301 (100.0)	288 (95.7)	3 (1.0)	10 (3.3)	305 (100.0)	281 (92.1)	12 (3.9)	13 (4.3)
聴覚・言語障害	346 (100.0)	323 (93.4)	9 (2.6)	14 (4.0)	350 (100.0)	313 (89.4)	13 (3.7)	24 (6.9)
聴覚障害	305 (100.0)	286 (93.8)	7 (2.3)	12 (3.9)	304 (100.0)	275 (90.5)	9 (3.0)	20 (6.6)
平衡機能障害	7 (100.0)	6 (85.7)	-	1 (14.3)	4 (100.0)	2 (50.0)	2 (50.0)	-
音声言語機能障害	34 (100.0)	30 (88.2)	2 (5.9)	1 (2.9)	43 (100.0)	36 (83.7)	2 (4.7)	5 (11.6)
肢体不自由	1,749 (100.0)	1,682 (96.2)	20 (1.1)	47 (2.7)	1,657 (100.0)	1,485 (89.6)	89 (5.4)	83 (5.0)
上肢切断	98 (100.0)	96 (98.0)	-	3 (3.1)	102 (100.0)	91 (89.2)	2 (2.0)	9 (8.8)
上肢機能障害	479 (100.0)	464 (96.9)	4 (0.8)	11 (2.3)	504 (100.0)	456 (90.5)	26 (5.2)	22 (4.4)
下肢切断	49 (100.0)	47 (96.9)	-	2 (4.1)	47 (100.0)	43 (91.5)	2 (4.3)	2 (4.3)
下肢機能障害	563 (100.0)	542 (96.3)	9 (1.6)	13 (2.3)	612 (100.0)	546 (89.2)	36 (5.9)	30 (4.9)
体幹機能障害	167 (100.0)	161 (96.4)	1 (0.6)	5 (3.0)	225 (100.0)	203 (90.2)	11 (4.9)	11 (4.9)
脳原性全身性運動機能障害	60 (100.0)	55 (91.7)	1 (1.7)	3 (5.0)	-	-	-	-
全身性運動機能障害 (多肢及び体幹)	333 (100.0)	318 (95.5)	5 (1.5)	10 (3.0)	168 (100.0)	146 (86.9)	13 (7.7)	8 (4.8)
内部障害	849 (100.0)	825 (97.2)	8 (0.9)	17 (2.0)	621 (100.0)	578 (93.1)	15 (2.4)	28 (4.5)
心臓機能障害	463 (100.0)	451 (97.4)	4 (0.9)	8 (1.7)	336 (100.0)	316 (94.0)	7 (2.1)	14 (4.2)
呼吸器機能障害	89 (100.0)	85 (95.5)	1 (1.1)	3 (3.4)	75 (100.0)	68 (90.7)	3 (4.0)	4 (5.3)
じん臓機能障害	202 (100.0)	199 (98.5)	2 (1.0)	1 (0.5)	142 (100.0)	133 (93.7)	3 (2.1)	6 (4.2)
ぼうこう・直腸機能障害	91 (100.0)	85 (93.4)	1 (1.1)	5 (5.5)	66 (100.0)	60 (90.9)	2 (3.0)	4 (6.1)
小腸機能障害	3 (100.0)	3 (100.0)	-	-	1 (100.0)	1 (100.0)	1 (100.0)	-
ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害	2 (100.0)	2 (100.0)	-	-	-	-	-	-
(再掲) 重複障害	175 (100.0)	165 (94.3)	4 (2.3)	7 (4.0)	179 (100.0)	159 (88.8)	11 (6.1)	9 (5.0)

()内は構成比(%)

2 点字修得及びコミュニケーション手段の状況

(1) 視覚障害者で「点字ができる」と答えた者は32,000人(10.6%)である。等級別に「点字ができる」割合をみると、1級が21.0%で最も高い。

表Ⅲ-2 障害の程度別にみた点字修得及び点字必要性の状況

(単位:千人)

障害の程度	総数	点字ができる	点字ができない				回答なし
			小計	点字必要	点字必要なし	回答なし	
総数	301 (100.0)	32 (10.6)	229 (76.1)	17 (5.6)	201 (66.8)	11 (3.7)	40 (13.3)
1級	105 (100.0)	22 (21.0)	75 (71.4)	9 (8.6)	63 (60.0)	4 (3.8)	7 (6.7)
2級	74 (100.0)	9 (12.2)	58 (78.4)	4 (5.4)	49 (66.2)	6 (8.1)	7 (9.5)
3級	27 (100.0)	-	22 (81.5)	-	21 (77.8)	1 (3.7)	6 (22.2)
4級	28 (100.0)	1 (3.6)	23 (82.1)	1 (3.6)	21 (75.0)	1 (3.6)	4 (14.3)
5級	34 (100.0)	1 (2.9)	30 (88.2)	1 (2.9)	29 (85.3)	1 (2.9)	4 (11.8)
6級	32 (100.0)	-	21 (65.6)	1 (3.1)	19 (59.4)	-	11 (34.4)
不明	1 (100.0)	-	-	-	-	-	1 (100.0)

()内は構成比(%)

(2) 聴覚障害者のコミュニケーション手段としては、「補聴器や人工内耳等の補聴機器」が79.0%と最も高く、次いで「筆談・要約筆記」の24.6%、「手話・手話通訳」の15.4%、「読話」の6.2%の順となっている。

表Ⅲ-3 聴覚障害者のコミュニケーション手段の利用状況(複数回答)

(単位:千人)

総数	補聴器や人工内耳等の補聴機器	筆談・要約筆記	読話	手話・手話通訳	その他
305 (100.0)	241 (79.0)	75 (24.6)	19 (6.2)	47 (15.4)	52 (17.0)

()内は構成比(%)

3 情報入手の状況

- (1) 情報の入手方法の割合をみると、「テレビ」が81.1%と最も高く、次いで「一般図書・新聞・雑誌」の59.7%、「家族・友人」の52.6%である。
- (2) 障害の種類別にみると、聴覚・言語障害、肢体不自由、内部障害では「テレビ（一般放送）」「一般図書・新聞・雑誌」の割合が高いが、視覚障害では「テレビ（一般放送）」「ラジオ」の割合が高く、情報の入手方法が異なっていることを示している。

表Ⅲ－４ 障害の種類別にみた情報の入手方法の状況（複数回答）

(単位:千人)

情報の入手方法	総数	障 害 種 類 別			
		視覚障害	聴覚・言語障害	肢体不自由	内部障害
総数	3,245 (100.0)	301 (100.0)	346 (100.0)	1,749 (100.0)	849 (100.0)
一般図書・新聞・雑誌	1,936 (59.7)	78 (25.9)	233 (67.3)	1,053 (60.2)	572 (67.4)
録音・点字図書	25 (0.8)	22 (7.3)	-	1 (0.1)	2 (0.2)
ホームページ・電子メール	114 (3.5)	6 (2.0)	11 (3.2)	70 (4.0)	27 (3.2)
携帯電話	150 (4.6)	11 (3.7)	21 (6.1)	83 (4.7)	34 (4.0)
ファックス	111 (3.4)	3 (1.0)	42 (12.1)	45 (2.6)	22 (2.6)
テレビ(一般放送)	2,632 (81.1)	218 (72.4)	261 (75.4)	1,438 (82.2)	715 (84.2)
手話放送・字幕放送	57 (1.8)	-	50 (14.5)	4 (0.2)	3 (0.4)
ラジオ	1,014 (31.2)	167 (55.5)	40 (11.6)	532 (30.4)	275 (32.4)
自治体広報	943 (29.1)	47 (15.6)	91 (26.3)	531 (30.4)	274 (32.3)
家族・友人	1,708 (52.6)	176 (58.5)	190 (54.9)	916 (52.4)	427 (50.3)
その他	135 (4.2)	6 (2.0)	19 (5.5)	70 (4.0)	39 (4.6)

()内は構成比(%)

4 パソコンの利用状況

(1) パソコンの利用状況を見ると、「毎日利用する」又は「たまに利用する」と答えた者は、281,000人(8.7%)である。これを障害の種類別にみると、内部障害、肢体不自由のパソコン利用率の割合が比較的高い。

表Ⅲ-5 障害の種類別にみたパソコン利用の状況

(単位:千人)

障害の種類	総数	利用する		利用しない		回答なし
		毎日利用する	たまに利用する	ほとんど利用しない	全く利用しない	
総数	3,245 (100.0)	144 (4.4)	137 (4.2)	100 (3.1)	2,228 (68.7)	637 (19.6)
		(8.7)		(71.7)		
視覚障害	301 (100.0)	10 (3.3)	5 (1.7)	4 (1.3)	240 (79.7)	42 (14.0)
		(5.0)		(81.1)		
聴覚・言語障害	346 (100.0)	10 (2.9)	13 (3.8)	10 (2.9)	242 (69.9)	71 (20.5)
		(6.6)		(72.8)		
肢体不自由	1,749 (100.0)	86 (4.9)	77 (4.4)	55 (3.1)	1,165 (66.6)	365 (20.9)
		(9.3)		(69.8)		
内部障害	849 (100.0)	38 (4.5)	42 (4.9)	30 (3.5)	581 (68.4)	159 (18.7)
		(9.4)		(72.0)		

()内は構成比(%)

(2) パソコンを「ほとんど利用しない」又は「全く利用しない」と答えた者(2,328,000人)のうち、パソコン利用を希望しているのは457,000人(19.6%)である。

表Ⅲ-6 障害の種類別にみたパソコン利用希望の状況

(単位:千人)

パソコン利用希望	総数	障害種類別			
		視覚障害	聴覚・言語障害	肢体不自由	内部障害
総数	2,328 (100.0)	244 (100.0)	252 (100.0)	1,221 (100.0)	611 (100.0)
利用したいと思う	457 (19.6)	27 (11.1)	37 (14.7)	250 (20.5)	144 (23.6)
利用したいと思わない	929 (39.9)	123 (50.4)	103 (40.9)	452 (37.0)	251 (41.1)
わからない	512 (22.0)	48 (19.7)	73 (29.0)	275 (22.5)	115 (18.8)
回答なし	430 (18.5)	47 (19.3)	39 (15.5)	244 (20.0)	101 (16.5)

()内は構成比(%)

5 日常生活動作の状況

(1) 日常の生活動作として、「食事」「食事のしたくや後かたづけ」「排泄」「入浴」「衣服の着脱」「掃除・整理整頓」「洗濯」「寝返り」「家の中を移動」「外出」「日常の買い物」の11の動作の状況についてみると、

ア 日常生活動作を「一人でできる(時間をかければできるを含む)」者については「食事をする」が87.8%と最も高く、「日常の買い物をする」が56.9%と最も低い割合となっている。

イ 一方、「一部介助を要する」者については、「外出をする」が11.4%と最も高く、「寝返りをする」が3.4%と最も低い割合となっている。

ウ さらに、「全部介助を要する」者については、「日常の買い物をする」が20.9%、「洗濯をする」が19.8%、「食事のしたくや後かたづけをする」が17.4%、「外出をする」が16.5%、「身の回りの掃除、整理整頓をする」が15.7%、「入浴をする」が12.2%などとなっており、「日常の買い物をする」が最も高くなっている。

表Ⅲ-7 日常生活動作の介助状況

(単位:千人)

日常生活動作の種類	総数	一人でできる	時間をかければできる	一部介助が必要	全部介助が必要	回答なし
食事をする	3,245 (100.0)	2,571 (79.2)	277 (8.5)	126 (3.9)	121 (3.7)	152 (4.7)
		(87.8)		(7.6)		
食事のしたくや後かたづけをする	3,245 (100.0)	1,638 (50.5)	382 (11.8)	243 (7.5)	565 (17.4)	417 (12.9)
		(62.2)		(24.9)		
排泄をする	3,245 (100.0)	2,394 (73.8)	230 (7.1)	148 (4.6)	232 (7.1)	241 (7.4)
		(80.9)		(11.7)		
入浴をする	3,245 (100.0)	2,131 (65.7)	231 (7.1)	284 (8.8)	397 (12.2)	203 (6.3)
		(72.8)		(21.0)		
衣服の着脱をする	3,245 (100.0)	2,148 (66.2)	369 (11.4)	249 (7.7)	269 (8.3)	211 (6.5)
		(77.6)		(16.0)		
身の回りの掃除、整理整頓をする	3,245 (100.0)	1,736 (53.5)	371 (11.4)	307 (9.5)	509 (15.7)	323 (10.0)
		(64.9)		(25.1)		
洗濯をする	3,245 (100.0)	1,694 (52.2)	314 (9.7)	180 (5.5)	642 (19.8)	415 (12.8)
		(61.9)		(25.3)		
寝返りをする	3,245 (100.0)	2,446 (75.4)	285 (8.8)	110 (3.4)	155 (4.8)	249 (7.7)
		(84.2)		(8.2)		
家の中を移動する	3,245 (100.0)	2,280 (70.3)	356 (11.0)	141 (4.3)	220 (6.8)	249 (7.7)
		(81.2)		(11.1)		
外出をする	3,245 (100.0)	1,788 (55.1)	276 (8.5)	370 (11.4)	535 (16.5)	277 (8.5)
		(63.6)		(27.9)		
日常の買い物をする	3,245 (100.0)	1,569 (48.4)	277 (8.5)	328 (10.1)	679 (20.9)	393 (12.1)
		(56.9)		(31.0)		

()内は構成比(%)

(2) 日常生活動作の介助を必要とする者についての主な介助者では、「配偶者」「子供」等の家族が「入浴をする」で56.9%、「食事をする」で73.2%を占めており、全体的に家族の割合が高い。

表Ⅲ-8 日常生活動作別にみた主な介助者の状況

(単位:千人)

日常生活動作の種類	総数	配偶者	親	子供	その他の家族	親戚	訪問介護員	隣人知人	雇人	ボランティア	その他	いない	回答なし
食事をする	246 (100.0)	105 (42.7)	26 (10.6)	32 (13.0)	17 (6.9)	1 (0.4)	6 (2.4)	-	-	-	17 (6.9)	1 (0.4)	43 (17.5)
		(73.2)				(9.8)							
食事のしたくや後かたづけをする	808 (100.0)	297 (36.8)	90 (11.1)	114 (14.1)	62 (7.7)	4 (0.5)	31 (3.8)	1 (0.1)	1 (0.1)	-	35 (4.3)	1 (0.1)	172 (21.3)
		(69.7)				(8.9)							
排泄をする	380 (100.0)	133 (35.0)	34 (8.9)	64 (16.8)	23 (6.1)	2 (0.5)	10 (2.6)	1 (0.3)	-	1 (0.3)	29 (7.6)	1 (0.3)	83 (21.8)
		(66.8)				(11.3)							
入浴をする	680 (100.0)	211 (31.0)	43 (6.3)	74 (10.9)	59 (8.7)	1 (0.1)	73 (10.7)	1 (0.1)	1 (0.1)	2 (0.3)	63 (9.3)	1 (0.1)	152 (22.4)
		(56.9)				(20.7)							
衣服の着脱する	517 (100.0)	200 (38.7)	37 (7.2)	56 (10.8)	30 (5.8)	22 (4.3)	20 (3.9)	1 (0.2)	-	-	33 (6.4)	1 (0.2)	116 (22.4)
		(62.5)				(14.7)							
身の回りの掃除、整理整頓をする	815 (100.0)	290 (35.6)	57 (7.0)	107 (13.1)	55 (6.7)	4 (0.5)	84 (10.3)	1 (0.1)	2 (0.2)	2 (0.2)	33 (4.0)	1 (0.1)	178 (21.8)
		(62.5)				(15.5)							
洗濯をする	823 (100.0)	313 (38.0)	60 (7.3)	110 (13.4)	66 (8.0)	5 (0.6)	31 (3.8)	31 (3.8)	2 (0.2)	-	32 (3.9)	1 (0.1)	172 (20.9)
		(66.7)				(12.3)							
寝返りをする	265 (100.0)	99 (37.4)	17 (6.4)	29 (10.9)	13 (4.9)	1 (0.4)	6 (2.3)	1 (0.4)	12 (4.5)	-	26 (9.8)	1 (0.4)	59 (22.3)
		(59.6)				(17.4)							
家の中を移動する	361 (100.0)	119 (33.0)	26 (7.2)	45 (12.5)	26 (7.2)	1 (0.3)	9 (2.5)	1 (0.3)	1 (0.3)	17 (4.7)	29 (8.0)	1 (0.3)	86 (23.8)
		(59.8)				(16.1)							
外出をする	905 (100.0)	313 (34.6)	57 (6.3)	140 (15.5)	61 (6.7)	7 (0.8)	40 (4.4)	4 (0.4)	2 (0.2)	3 (0.3)	67 (7.4)	3 (0.3)	208 (23.0)
		(63.1)				(13.6)							
日常の買い物をする	1007 (100.0)	361 (35.8)	61 (6.1)	160 (15.9)	80 (7.9)	6 (0.6)	43 (4.3)	4 (0.4)	4 (0.4)	1 (0.1)	29 (2.9)	35 (3.5)	222 (22.0)
		(65.7)				(8.6)							

()内は構成比(%)

6 外出の状況

(1) 過去1年間における外出の状況をみると、外出をしたことがある者が全体の89.9%となっており、これを障害の種類別にみると、それぞれ8割以上の者が外出をしており、なかでも内部障害の93.1%が最も高い。

また、外出していない者は全体の6.1%であり、障害の種類別にみると肢体不自由が8.1%で最も高い。

外出の回数をみると、「ほぼ毎日」(40.4%)が最も多く、次に「週に2～3回」(24.3%)、「月に2～3回」(15.3%)の順となっている。

表Ⅲ－9 障害の種類別にみた外出の有無及び外出回数の状況

(単位:千人)

障害の種類	総数	外出あり					外出なし	回答なし
		小計	ほぼ毎日	週に2～3回	月に2～3回	年に数回		
総数	3,245 (100.0)	2,918 (89.9)	1,312 (40.4)	790 (24.3)	495 (15.3)	322 (9.9)	197 (6.1)	130 (4.0)
視覚障害	301 (100.0)	271 (90.0)	91 (30.2)	80 (26.6)	61 (20.3)	40 (13.3)	20 (6.6)	10 (3.3)
聴覚・言語障害	346 (100.0)	320 (92.5)	182 (52.6)	67 (19.4)	42 (12.1)	29 (8.4)	11 (3.2)	16 (4.6)
肢体不自由	1,749 (100.0)	1,538 (87.9)	654 (37.4)	418 (23.9)	278 (15.9)	188 (10.7)	141 (8.1)	70 (4.0)
内部障害	849 (100.0)	790 (93.1)	386 (45.5)	225 (26.5)	114 (13.4)	65 (7.7)	25 (2.9)	34 (4.0)

()内は構成比(%)

(2) 障害の種類別に外出者総数に対し本人のみで外出している割合をみると、聴覚・言語障害が47.5%で最も高く、視覚障害は33.6%と最も低い。

また、外出時の介助者の状況をみると、「配偶者」(19.6%)が最も多く、次に「子供」(8.4%)、「他の家族」(3.0%)、「ホームヘルパー」(2.7%)の順となっている。

表Ⅲ－10 障害の種類別にみた外出時の主な介助者の状況

(単位:千人)

障害の種類	総数	本人のみ	配偶者	親	子供	その他の家族	親戚	ホームヘルパー
総数	2,918 (100.0)	1,173 (40.2)	571 (19.6)	68 (2.3)	244 (8.4)	88 (3.0)	20 (0.7)	78 (2.7)
視覚障害	271 (100.0)	91 (33.6)	69 (25.5)	6 (2.2)	32 (11.8)	14 (5.2)	3 (1.1)	9 (3.3)
聴覚・言語障害	320 (100.0)	152 (47.5)	22 (6.9)	3 (0.9)	27 (8.4)	11 (3.4)	4 (1.3)	6 (1.9)
肢体不自由	1,538 (100.0)	568 (36.9)	334 (21.7)	55 (3.6)	134 (8.7)	42 (2.7)	9 (0.6)	55 (3.6)
内部障害	790 (100.0)	361 (45.7)	146 (18.5)	4 (0.5)	51 (6.5)	20 (2.5)	4 (0.5)	8 (1.0)

隣人・知人	雇人	ボランティア	手話通訳者	盲ろう者通訳・介助者	要約筆記者	その他	回答なし
31 (1.1)	4 (0.1)	7 (0.2)	1 0.0	4 (0.1)	1 0.0	45 (1.5)	582 (19.9)
8 (3.0)	-	1 (0.4)	-	-	-	4 (1.5)	34 (12.5)
2 (0.6)	1 (0.3)	-	1 (0.3)	-	1 (0.3)	6 (1.9)	83 (25.9)
12 (0.8)	2 (0.1)	5 (0.3)	-	4 (0.3)	1 (0.1)	30 (2.0)	287 (18.7)
9 (1.1)	1 (0.1)	1 (0.1)	-	1 (0.1)	-	6 (0.8)	178 (22.5)

()内は構成比(%)

(3) 外出するうえで困ることや不満がある人は全体の42.3%であり、その内容についてみると、「乗り物の利用が不便」(8.8%)、「利用する建物の設備が不便」(8.0%)、「車などに危険を感じる」(6.5%)の順となっている。また、障害の種類別では、聴覚・言語障害の「人と話をすることが困難」(20.0%)、視覚障害の「乗り物の利用が不便」(11.4%)、肢体不自由の「利用する建物の設備が不便」(10.5%)の割合が高い。

表Ⅲ-11 障害の種類別にみた外出するうえで困ることの状況(複数回答)

(単位:千人)

困ることや不満に思うことがある外出者数・その内容	総数	障 害 種 類 別			
		視覚障害	聴覚・言語障害	肢体不自由	内部障害
総数	2,918 (100.0)	271 (100.0)	320 (100.0)	1,538 (100.0)	790 (100.0)
困ることや不満に思うことがある外出者総数	1,235 (42.3)	140 (51.7)	137 (42.8)	716 (46.6)	242 (30.6)
電車・バス・タクシー等の乗り物の利用が不便	258 (8.8)	31 (11.4)	26 (8.1)	154 (10.0)	47 (5.9)
道路や駅などの公共の場所の利用が不便	170 (5.8)	19 (7.0)	8 (2.5)	118 (7.7)	25 (3.2)
利用する建物の設備(階段、トイレエレベーター等)が不便	234 (8.0)	21 (7.7)	8 (2.5)	162 (10.5)	44 (5.6)
車などに身の危険を感じる	190 (6.5)	25 (9.2)	23 (7.2)	111 (7.2)	32 (4.1)
介助者がいない	19 (0.7)	2 (0.7)	3 (0.9)	10 (0.7)	4 (0.5)
経費がかかる	75 (2.6)	6 (2.2)	7 (2.2)	43 (2.8)	19 (2.4)
人の目が気にかかる	47 (1.6)	4 (1.5)	6 (1.9)	33 (2.1)	4 (0.5)
人と話をすることが困難	80 (2.7)	1 (0.4)	64 (20.0)	9 (0.6)	7 (0.9)
外出に必要な情報が得られない	16 (0.5)	1 (0.4)	7 (2.2)	5 (0.3)	2 (0.3)
駅などにおける人間関係のトラブル	11 (0.4)	2 (0.7)	4 (1.3)	4 (0.3)	1 (0.1)
駅員等に不当な扱いを受ける	11 (0.4)	3 (1.1)	3 (0.9)	3 (0.2)	2 (0.3)
事前に行き先を家族等に告げなければ外出できない	24 (0.8)	3 (1.1)	4 (1.3)	9 (0.6)	9 (1.1)
その他	63 (2.2)	6 (2.2)	7 (2.2)	31 (2.0)	19 (2.4)
回答なし	645 (22.1)	36 (13.3)	70 (21.9)	292 (19.0)	247 (31.3)

()内は構成比(%)

7 社会活動等の状況

- (1) 過去1年間における社会活動等の状況をみると、全体の46.3%が社会活動をしたと答えている。また、社会活動の内容をみると、旅行等(26.2%)が最も多く、次いでコンサート等(17.7%)、同好会(12.8%)の順である。

表Ⅲ-12 障害の種類別に見た過去1年間の社会活動等の状況(複数回答)

(単位:千人)

社会活動をした 身体障害者数 社会活動の内容	総数	障害種類別			
		視覚障害	聴覚・ 言語障害	肢体 不自由	内部障害
総数	3,245 (100.0)	301 (100.0)	346 (100.0)	1,749 (100.0)	849 (100.0)
社会活動をした 身体障害者数	1,504 (46.3)	108 (35.9)	160 (46.2)	805 (46.0)	430 (50.6)
コンサート等	573 (17.7)	32 (10.6)	58 (16.8)	306 (17.5)	176 (20.7)
スポーツ教室	259 (8.0)	22 (7.3)	41 (11.8)	140 (8.0)	56 (6.6)
旅行等	849 (26.2)	57 (18.9)	93 (26.9)	460 (26.3)	239 (28.2)
学習活動	269 (8.3)	19 (6.3)	31 (9.0)	145 (8.3)	74 (8.7)
同好会	414 (12.8)	27 (9.0)	41 (11.8)	217 (12.4)	129 (15.2)
ボランティア	208 (6.4)	16 (5.3)	26 (7.5)	105 (6.0)	62 (7.3)
障害者団体等	310 (9.6)	29 (9.6)	43 (12.4)	172 (9.8)	65 (7.7)
自治会活動	283 (8.7)	18 (6.0)	28 (8.1)	155 (8.9)	82 (9.7)
パソコン利用	221 (6.8)	14 (4.7)	21 (6.1)	128 (7.3)	58 (6.8)
その他	138 (4.3)	9 (3.0)	17 (4.9)	77 (4.4)	35 (4.1)

()内は構成比(%)

- (2) 今後したい社会活動の状況は、旅行等(19.8%)、コンサート等(12.5%)、パソコン利用(10.5%)の順に高い割合を示している。

表Ⅲ-13 障害の種類別に見た今後したい社会活動等の状況(複数回答)

(単位:千人)

今後社会活動をし たい身体障害者数 社会活動の内容	総数	障害種類別			
		視覚障害	聴覚・ 言語障害	肢体 不自由	内部障害
総数	3,245 (100.0)	301 (100.0)	346 (100.0)	1,749 (100.0)	849 (100.0)
今後社会活動をし たい身体障害者数	1,142 (35.2)	88 (29.2)	105 (30.3)	639 (36.5)	311 (36.6)
コンサート等	407 (12.5)	31 (10.3)	33 (9.5)	232 (13.3)	111 (13.1)
スポーツ教室	190 (5.9)	17 (5.6)	27 (7.8)	96 (5.5)	50 (5.9)
旅行等	644 (19.8)	51 (16.9)	60 (17.3)	368 (21.0)	165 (19.4)
学習活動	209 (6.4)	19 (6.3)	22 (6.4)	115 (6.6)	52 (6.1)
同好会	318 (9.8)	23 (7.6)	30 (8.7)	179 (10.2)	85 (10.0)
ボランティア	176 (5.4)	15 (5.0)	17 (4.9)	96 (5.5)	48 (5.7)
障害者団体等	221 (6.8)	19 (6.3)	24 (6.9)	135 (7.7)	42 (4.9)
自治会活動	106 (3.3)	6 (2.0)	11 (3.2)	57 (3.3)	33 (3.9)
パソコン利用	340 (10.5)	23 (7.6)	27 (7.8)	186 (10.6)	104 (12.2)
その他	62 (1.9)	4 (1.3)	11 (3.2)	32 (1.8)	15 (1.8)

()内は構成比(%)